

JOSKAS ニュースレター

発行：一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)

URL:<http://www.joskas.jp/>

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル (株式会社コングレ内) TEL:03-3263-5394 FAX:03-5216-5552

理事長再任のご挨拶

一般社団法人 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 理事長
広島大学 学 長

越智 光夫

平成28年7月27日に開催されました一般社団法人日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会の社員総会において役員が改選され、その後に行われた新理事会で理事長を拝命いたしました。

本学会の理事長に再度ご指名いただき、大変光栄に存じますとともに、その重責をひしひしと感じております。長い歴史を持つ日本関節鏡学会と日本膝関節学会が統合しJOSKASとなり、8年が経ちました。平成25年の一般社団法人化を経て会員数も順調に伸び、現在は約3,600名まで発展しております。今回の役員改選では5名の新任理事が加わりまして、理事会の世代交代が着実にすすんでおります。

会員においても「これからのJOSKAS」を支えていく若い方々が増えており、その知的活動を支援することが大きな柱になって参ります。JOSKASフェロシップは、若手会員の技術向上と会員相互の親睦を目的としておりますが、今回は定員を5名に増員しましたので、ぜひ一般病院で活躍されている医師にもご応募いただきたいと考えております。

SIGASCOTとのTraveling Fellowshipは、9月に史野根生先生(行岡病院)をGodfatherとして、古賀英之先生(東京医科歯科大学)、熊橋伸之先生

(島根大学)の2名がフィレンツェでの6th National SIGASCOT Congressの参加を含め、イタリアに2週間訪問されました。

また今年度の新規事業として、JOSKAS独自の研究助成制度を開始することを社員総会でお認めいただきました。今後、理事会で公募内容や助成方法を検討し、決定次第、ホームページでご案内しますので、ぜひご活用ください。

このように若手医師の研修や研究の助成を拡大するとともに、国際的な活躍の場を設けられるよう海外誌への論文投稿などについてもより細かい制度を確立させて参ります。

また、関連学会との連携も強化し、各学会に所属する方々が多く論文や研究結果に触れ、相互に成長していけるよう協力していく所存です。

本学会にこれまでご貢献いただきました方々のお知恵を拝借しつつ、若い方々の成長を支え、守るべきところと変えるべきところを見極めながら益々の発展に邁進して参りますので、皆様のお力添えを賜れば幸甚でございます。

末筆になりましたが、会員の皆様の更なるご活躍を祈念し、理事長再任の挨拶とさせていただきます。

第8回JOSKAS学術集会報告

兵庫医科大学 整形外科
第8回学術集会会長 吉矢 晋一

2016年7月28日から30日の3日間にわたって、福岡国際会議場、福岡サンパレスで「正常機能の再現をめざして」というテーマのもと、第8回学術集会を開催させていただきました。プログラム作成にあたって考えたことは、①情熱ある若い先生方に興味を持って参加、勉強してもらえる企画を行う、②国際化の流れをさらに推し進める——の2点でした。この目的に沿って、各領域のプロ



学会初日の午後に行われた国際シンポジウム「ACL再建術のConceptと術式」の演者・座長

グラム委員の先生方にご提案いただいたシンポジウム・パネルディスカッション10セッション、3名のフランス関節鏡学会からのゲストを含めた計17名の海外からのゲストの先生方の講演や国際シンポジウム(写真)を企画しました。また学会のメイン企画であるMasaki Watanabe Awardは敬愛する越智理事長と韓国のAhn先生に贈呈され、記念のlectureを行っていただきました。一般演題につきましては1,143題の応募があり、査読によりその約90%にあたる1,034題を採用いたしました。

学術集会は天候にも恵まれ、2,700名を超える方々のご参加のもと、すべての会場で、盛り上がった発表やディスカッションが行われました。また3日目の午後からは2日間の日程で、関節鏡・手術研修のためのJOSKASセミナーを行いました。学術集会を通じて感じたのは、参加された先生方の熱気です。これからの日本の関節鏡・膝・スポーツ整形外科を支えていくのは、これらの先生方であることを強く実感しました。

末筆ではありますが、学会の企画、運営、演題査読にご協力いただきました役員の方、スタッフの皆様、そして学会を盛り上げていただいた会員の方々に深く御礼を申し上げます。

2017年度JOSKASフェローシップ 公募要領

- 募集内容：2017年度JOSKASフェローシップ参加者(2017年度フェロー)
- 実施内容：フェロー受け入れ施設の訪問・見学
- 訪問施設にて外来診察法や手術手技を学ぶ
- 募集人員：5名
- 応募資格：① JOSKAS正会員であること
② 年齢は2017年3月31日現在35歳以下であること
- 訪問期間：2017年5月から2018年4月までの1年間のうち、任意の1~2週間
- 訪問施設：受入れ施設の中から1~2施設を自由に選択できる。
フェローは各自訪問先と連絡を取り、訪問時期は受入れ施設との間で自由に調整可能。
フェローの義務：施設訪問の体験を次年度の学会において報告する。

応募希望者は次の必要書類を添えて教育研修委員会宛にお申込みください。

- 提出書類：① 履歴書(業績を含む)
② 勤務先からの推薦状
③ JOSKASへの誓約書(別様式) ※ホームページ掲載
④ 訪問希望施設とその施設を希望する理由
- 提出先：JOSKAS教育研修委員会
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1弘済会館ビル 株式会社コングレ内
- 応募締切：2016年11月30日(水)
- 選考結果：2017年2月に本人へ通知します。

問い合わせ先

一般社団法人日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)事務局
TEL: 03-3263-5394/FAX: 03-5216-5552/E-Mail: info@joskas.jp

2016年度 JOSKAS学会賞

～受賞者のことば～

関節鏡賞

昭和大学藤が丘病院 整形外科 上原 大志

「難治性上腕骨外側上顆炎における鏡視下手術後のMRIによる画像評価と臨床成績の検討」

このたび、第8回JOSKASにおいて、JOSKAS学会賞(関節鏡賞)を頂きましたことを誠に光栄に存じます。

私は、自分の研究テーマを決める際には常に、「日常診療で疑問に思っていること」、「臨床にすぐに役立つこと」を念頭に考えます。今回の研究も、上腕骨外側上顆炎に対する鏡視下手術について、同僚からの「ECRBを搔爬するだけでいいの? 縫わなくていいの? それだけで良くなるの?」という質問に対して、明確に答えることが出来なかったことから始まりました。本研究で、搔爬したECRBは腱様組織として再生する可能性があること、術後成績には病変部を十分に搔爬することが最も重要であると分かったことを、今回学会賞を頂くことで評価して頂き本当に嬉しく思っています。今後の臨床において、少しは先生方のお役に立てたのではないかと考えております。

最後に、本研究を始めるにあたり直接ご指導、ご協力していただきました西中直也先生、論文執筆に際しご指導していただきました筒井廣明教授、鈴木一秀先生、また本研究を評価していただきました選考委員の先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

膝賞

弘前大学大学院医学研究科 整形外科科学講座 佐々木 英嗣

「日本語版KOOSの標準値」

2016年度のJOSKASにおきまして、栄誉ある膝賞に選出していただき、大変光栄に存じます。この場をお借りしまして、受賞の報告と研究内容の紹介をさせていただきます。

Knee injury and osteoarthritis outcome score(KOOS)は2011年に中村憲正先生によるcross cultural adaptationが完成し、日本語版KOOSの使用が可能となりました。本評価表は42項目の設問より多面的な評価を行うことができる患者立脚型評価表であり、スポーツ外傷から変形性膝関節症まで幅広く使用され、その使用頻度も高くなっております。しかしながら、臨床評価を行う際に必要な加齢との関連や対側膝の影響をはじめ、詳細が不明な点もあり、日本人の標準値を作成することにいたしました。幸い当科では長年地域住民健診を行っており、幅広い年齢層を対象に健常成人の評価を行うことができましたので、その結果から標準値を算出し報告させていただきました。本結果がさまざまな疾患に対してKOOSでの臨床評価を行う際に基準値としてご参照いただき、先生方のお役に立てますことを願っております。

本研究を行うに当たりまして、研究デザインの考え方や論文作成の詳細にわたりご指導いただきました石橋恭之教授はじめ、大規模調査にご協力いただきました皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。また、今後も臨床での疑問に向かい合い、さまざまな角度から解決に向けて取り組んでいけるよう努力していく所存ですので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

スポーツ賞

船橋整形外科病院 スポーツ医学・関節センター 大西 和友

「野球選手におけるSLAP損傷の手術成績」

このたび私の投稿論文である「野球選手におけるSLAP損傷の手術成績」がJOSKASスポーツ賞に選出されましたことを大変光栄に存じます。このような栄えある賞をいただけたのも、長年投球障害肩の治療に研鑽を積んでこられた菅谷啓之先生をはじめとする肩グループの先生方、さらには選手を競技復帰へと導いてくださった理学療法士やトレーナーの方々のおかげであり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



佐々木 英嗣 先生



大西 和友 先生

2016年度 OYIA賞 受賞者一覧



古賀 英之先生

宮本 亘先生

高山 孝治先生

2016年にインパクトファクターのある英文誌に 2編以上掲載された12名の先生方とその論文

ノミネート一覧

- **古賀 英之** (東京医科歯科大学大学院運動器外科学)
 - ・ Mid- to Long-term Results of Single-Bundle Versus Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: Randomized Controlled Trial. *Arthroscopy* 2015 Jan;31(1):69-76.
 - ・ Effect of Posterolateral Bundle Graft Fixation Angles on Clinical Outcomes in Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Randomized Controlled Trial. *Am J Sports Med* 2015 May;43(5):1157-64.
 - ・ Effect of Initial Graft Tension on Knee Stability and Graft Tension Pattern in Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction. *Arthroscopy* 2015 Sep;31(9):1756-63.
 - ・ Evaluation of a Behind-remnant Approach for Femoral Tunnel Creation in Remnant-preserving Double-bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction - Comparison with a Standard Approach. *Knee* 2015 Jun;22(3):249-55.
- **宮本 亘** (帝京大学整形外科学講座)
 - ・ Fixation for avulsion fracture of the calcaneal tuberosity using a side-locking loop suture technique and anti-slip knot. *Foot and Ankle International* 2015 May;36(5):603-7.
 - ・ Hindfoot endoscopy for posterior ankle impingement syndrome and flexor hallucis longus tendon disorders. *Foot and Ankle Clinics* 2015 Mar;20(1):139-47.
 - ・ Simultaneous ankle arthroscopy and hindfoot endoscopy for combined anterior and posterior ankle impingement syndrome in professional athletes. *Journal of Orthopaedic Science* 2015 Jul;20(4):642-8.
 - ・ Ligament reconstruction with single bone tunnel technique for chronic symptomatic subtle injury of the Lisfranc joint in athletes. *Archives of Orthopaedic Trauma Surgery* 2015 Aug;135(8):1063-70.
 - ・ Endoscopic Repair of the Superior Peroneal Retinaculum via 2 Portals for Peroneal Tendon Instability. *Foot and Ankle International* 2015 Oct;36(10):1243-50.
- **高山 孝治** (神戸大学整形外科学)
 - ・ The effect of blocking angiogenesis on anterior cruciate ligament healing following stem cell transplantation. *Biomaterials* 2015 Aug;60:9-19.
 - ・ Joint gap assessment with a tensor is useful for the selection of insert thickness in unicompartmental knee arthroplasty. *Clinical Biomechanics* 2015 Jan;30(1):95-9.
 - ・ The tibia first technique with tensor measurement is useful to predict the soft tissue tension after implantation in unicompartmental knee arthroplasty. *International Orthopaedics* 2015 Apr;39(4):667-71.
- **大崎 幹仁** (九州大学整形外科学)
 - ・ Influences of knee flexion angle and portal position on the location of femoral tunnel outlet in anterior cruciate ligament reconstruction with anteromedial portal technique. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 23(3):777-84, 2015.
 - ・ Asymmetry in femoral tunnel socket length during anterior cruciate ligament reconstruction with transportal, outside-in, and modified transtibial techniques. *Arthroscopy* 31(12):2365-70, 2015
 - ・ Characterization of biochemical cartilage change after anterior cruciate ligament injury using T1 mapping magnetic resonance imaging. *Orthop J Sports Med* 3(5): 2325967115585092, 2015
- **中川 裕介** (東京医科歯科大学医学部再生医療研究センター)
 - ・ Synovial mesenchymal stem cells promote healing after meniscal repair in microminipigs. *Osteoarthritis and Cartilage* 38(6) · February 2015

- ・ Relationship between MRI T1rho value and histological findings of intact and radially incised menisci in microminipigs. *Journal of Magnetic Resonance Imaging* 2016 Feb;43(2):434-45.
- **入内島 崇紀** (上牧温泉病院)
 - ・ Proportional evaluation of anterior cruciate ligament footprint size and knee bony morphology. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.* 2015 Nov;23(11):3157-62.
 - ・ Size correlation between the tibial anterior cruciate ligament footprint and the tibia plateau. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.* 2015 Apr;23(4):1147-52.
- **長井 寛斗** (神戸大学整形外科学)
 - ・ Depletion of SIRT6 causes cellular senescence, DNA damage, and telomere dysfunction in human chondrocytes. *Osteoarthritis and Cartilage* 2015 Aug;23(8):1412-20.
 - ・ Quantitative comparison of the pivot shift test results before and after anterior cruciate ligament reconstruction by using the three-dimensional electromagnetic measurement system. *Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy* 2015 Oct;23(10):2876-81.
 - ・ Influence of Intraoperative Soft Tissue Balance on Postoperative Active Knee Extension in Posterior-Stabilized Total Knee Arthroplasty. *Journal of Arthroplasty* 2015 Jul;30(7):1155-9.
- **中野 直樹** (神戸大学整形外科学)
 - ・ Factors influencing the outcome of deep infection following total knee arthroplasty. *The Knee* 2015 Sep;22(4):328-32.
 - ・ Age-dependent healing potential of anterior cruciate ligament remnant-derived cells. *American Journal of Sports Medicine* 2015 Mar;43(3):700-8.
 - ・ Age-dependent healing potential of anterior cruciate ligament remnant-derived cells. *European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology*
- **松本 知之** (神戸大学整形外科学)
 - ・ A radiographic analysis of alignment of the lower extremities - initiation and progression of varus-type knee osteoarthritis. *Osteoarthritis and Cartilage* 2015 Feb;23(2):217-23.
 - ・ Semimembranosus Release Reduces Tibial Internal Rotation and Flexion Angle in Cruciate-Retaining Total Knee Arthroplasty. *Journal of Arthroplasty* 2015 Sep;30(9):1537-41.
 - ・ Treatment of 50 Deep Infections After Total Knee Arthroplasty. *Orthopedics* 2015 Jun;38(6):e529-35.
- **石田 一成** (神戸海星病院整形外科学)
 - ・ Factors affecting intraoperative kinematic patterns and flexion angles in navigated total knee arthroplasty. *Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy* 2015 Jun;23(6):1741-7.
 - ・ Evaluation of implant alignment in navigated unicompartmental knee arthroplasty : a comparison of 2D and 3D imaging. *Acta Orthopaedica Belgica* 2015 Dec;81(4):654-61.
- **山口 智志** (千葉大学大学院医学研究院整形外科学)
 - ・ Shape of the lateral edge of the first metatarsal head changes depending on the rotation and inclination of the first metatarsal: a study using digitally reconstructed radiographs. *J Orthop Sci.* 2015 Sep;20(5):868-74.
 - ・ Effect of Laterally Wedged Insoles on the External Knee Adduction Moment across Different Reference Frames. *PLoS One.* 2015 Sep 23;10(9):e0138554.
 - ・ Double-Row Bridging Suture Fixation Augmented With Double Krackow Suture for the Repair of Avulsion of the Ossified Achilles Tendon: A Technical Tip. *Foot Ankle Int.* 2015 Jul;36(7):849-52.
- **徳永 琢也** (熊本大学整形外科学)
 - ・ FGF-2 stimulates the growth of tenogenic progenitor cells to facilitate the generation of tenomodulin-positive tenocytes in a rat rotator cuff healing model. *American Journal of Sports Medicine* 2015; 43(10):2411-22
 - ・ The local application of gelatin hydrogel sheets impregnated with platelet-derived growth factor-BB promotes tendon-to-bone healing after rotator cuff repair in rats. *Arthroscopy* 2015 Aug;31(8):1482-91.

教授就任と今後の豊富

TeamworkとHard workで Initiativeをとる!

神戸大学大学院整形外科学 黒田 良祐



2016年6月1日、神戸大学大学院整形外科学教授を拝命致しました黒田良祐と申します。神戸大学整形外科教室は1954年に開講され、今年で62年を迎えます。初代柏木大治教授、第2代廣畑和志教授、第3代水野耕作教授、第4代黒坂昌弘教授と引き継がれ、私で第5代目となります。

私が教授就任に際しましてかかげたモットーは、Internationalization (国際化)とCooperation (相互協力)、Teamwork、Hard work、そしてInitiative (主導権)です。個々がしっかりHard workし、TeamworkでInitiative (主導権)を握り、世界に存在感を示せる整形外科教室にして参ります。臨床面では下肢スポーツ、下肢関節機能再建、上肢、脊椎、外傷、腫瘍、リウマチの各グループに分かれ、患者様に満足いただける医療を心掛けております。神戸にはその土地柄から、野球、サッカー、ラグビー、バレーボールなど多くのプロスポーツチームが在籍しています。さまざまなトップアスリートが我々を最後の頼りとして受

診され、治療を受けておられます。このような神戸大学整形外科のスポーツ診療の実績が評価され、2015年には西日本ではじめて国際サッカー連盟 (FIFA: Fédération Internationale de Football Association) の認定施設に登録されました。研究面においては関節安定性評価機器の開発、膝関節を中心とした関節バイオメカニクス研究、骨・軟骨の再生、腱・靭帯のリモデリング促進、椎間板の再生、幹細胞研究、運動器リハビリテーションへの新しい取り組みなどを行っております。トップアスリートからスポーツ愛好家まで、そして小児から高齢者に至るまで、基礎研究と実績に基づいた最新で最良の医療を提供できるよう努力してまいります。

神戸大学整形外科教室も新しい一歩を踏み出しました。JOSKASの発展のために粉骨砕身の覚悟で頑張っ参りたいと思っておりますので、引き続き御指導御鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。



編集後記

今年の夏のリオデジャネイロオリンピックでは、日本史上最多のメダルラッシュで国内中が盛り上がりました。スポーツの現場で選手がケガや障害を乗り越え、好成績を出してくれることは、たとえ草大会でもその治療に携わった者にとっては、選手同様に至福の喜びと思えます。ましてや今回のオリンピックでは、選手や組織に関わられたJOSKAS会員の多くの先生方の喜びもひとしおと存じます。

さて第6号のJOSKASニュースレターでは、越智光夫理事長の再任のご挨拶からはじまり、その中で若手医師の、国際的な活躍を支援する方針が再度強調されております。また第8回JOSKAS学術集会会長の吉矢晋一先生から、成功裏に終わった学会報告と若手医師の熱意への感動を述べられました。さらに2016年度の3つのJOSKAS

ニュースレター委員会 井上 雅之 (NTT東日本札幌病院)

学会賞 (関節鏡、膝、スポーツ) と、3人のOYIA賞の報告もありました。いずれの論文も、世界に先駆け質の高い、素晴らしい内容でした。締めは神戸大学の黒田良祐教授の新任のご挨拶で、国際化、TeamworkとHard workをモットーと挙げられておりました。思うに今回のニュースレターのキーワードは「若手、世界レベルでの活躍」のような気がします。これらの内容からも日本のスポーツ医学が、独創的な発想、巧みな技、先人のEBMをもとに新しい技も取り入れ、メダル量産国になれることを十分に確信できます。しかし、医療は経験に基づく診断や手術技術など、スポーツと違い、若さだけでは対処できないこともあります。今後ともJOSKAS会員の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。